

びわ北小学校からの報告

「みずすまし」水生生物調査結果表

調 査 場 所 名 (No.)				小観音寺町 No.1				No.2				No.3			
月 日 時 刻				5月28日 11時00分											
天 気				曇り											
水 温 (°C)				12.0 °C											
気 温 (°C)				26.5 °C											
川 幅 (m)				0.95 m											
河 川 名				水路											
生 物 を 採 取 し た 場 所				全面											
水 深 (cm)				12.0 cm											
流 速 (cm / s)				30.0 cm/s											
水 の よ う す		指標生物													
I き れ い	1	カワゲラ類													
	2	ナガレトビケラ・ヤマトビケラ クロツツトビケラ類													
	3	ヒラタケロウ類													
	4	ブユ類													
	5	ヘビトンボ類													
	6	ガガンボ類		○											
	7	サワガニ		○											
I ・ II 共 通	8	ウスムシ類													
	9	2以外のトビケラ類		●											
	10	3、14以外のカゲロウ類		○											
II 少しよごれている	11	ヒラ外ロムシ類													
	12	シジミ類		○											
II ・ III 共 通	13	カワニナ		○											
III よごれている	14	サホコカゲロウ													
	15	ヒル類													
	16	ミスムシ													
	17	モノアラガイ													
III ・ IV 共 通	18	サカマキガイ													
IV 大変よごれている	19	赤いユスリカ													
	20	イトミミズ類		○											
	21	ハナアブ類													
水 質 判 定 表	水のようすの区分			I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
	1	みつかった指標生物の 種類の計 (○+●)		4	4	1	1								
	2	みつかった指標生物のうち 一番数の多くあった種類(●)		1	1										
	合 計 (1欄+2欄)			5	5	1	1								
	判定結果(合計が最も大きい区分)			I ・ II											

調査考察、活動内容等

びわ北小学校では、総合的な学習の時間において「早崎ビオトープ学習」というテーマのもと、学区内にある早崎ビオトープの水環境や自然の変化を観察しながら学習を進めてきました。また、河川の水環境の学習は、5月に学区内の小観音寺町を流れる川や水路で観察を行いました。去年と同じ地点で水生生物の観察を行い、川や水の様子・生物について調べました。

(1) 早崎ビオトープ学習

5月25日に地域の専門家の方に来ていただき、早崎ビオトープの歴史や自然について詳しく教えていただきました。また、モンドリという仕掛け作りも体験させていただきました。日本最大のビオトープ実験地で、豊かな自然を取り戻すための活動が進んでいます。ビオトープ実験調査が始まってから、ヒシの実やコハクチョウが年々増えてきていることを教えていただきました。

早崎ビオトープは、水深が年々深くなってきており、中に入って生き物をとるのは難しくなりました。そこで、地域の専門家の先生と一緒に作ったモンドリというしかけを引き上げました。

6月25日に現地で調査をしました。事前にしかけておいた、モンドリを引き上げました。中には小魚やザリガニが入っていました。同時にしかけておいた網の中には、50 cmを超えるライギョが入っていて、子どもたちはびっくりしました。

最後に地引きあみ体験をしました。地引きあみでは底にすむ生き物を採取することができました。藻がたくさんあって、一目では見つけれられませんが、多くの生き物がすんでいることに気がつきました。



採取・観察した生き物

フナ、テナガエビ、スジエビ、メダカ、ドンコ、イサザ、モツゴ、ヨシノボリ、タイコウチ、ヤゴ、カワニナ、サカマキガイ、ミドリガメ、ヒシ、ヨシ、ガマなど



《環境日記より》

- ・ もんどりには、小魚やザリガニ、ライギョが入っていた。大きなフナ等いることがわかった。
- ・ 地引あみでとれた水生生物の名前を知ることができた。
- ・ 早崎ビオトープの水はにごっているけれど、その中でもたくさんの魚など生き物が生きていることを知った。
- ・ ビオトープのまわりには、ヨシ、アシ、マコモ、ガマなどの植物がたくさん生えていた。

(2) 学区の小観音寺町の川で水生生物親子観察会

「親子で水生生物を採取し観察しよう」と計画し、5月28日に親子で小観音寺の川や水路で観察会を行いました。

水生生物に詳しい地域の方を講師に迎えて採取の方法や観察の方法について説明を聞きました。

最初、網を使って水生生物をとろうとしましたが、なかなかとれませんでした。そこで、金網に変えて川底を足でこすると、多くの水生生物がとれました。友だちと協力しながら活動し、様々な生き物に触れることができました。

観察会のまとめをして、びわ地域の川の水に目を向けるよい機会になりました。

採取・観察した生き物

カワニナ、サワガニ、ナベブタムシ、ヨシノボリ、ヨコエビ、ヤゴ、ドジョウ、ヒゲナガトビケラ、モンカゲロウ、スジエビ、タニシ、イトミミズ、ヒメアメンボ、ドンコなど





《環境日記より》

- ・ 川の流れがはやいところとおそいところがあった。
- ・ 水の中よりも、川底や田んぼの水路（土）にたくさんの水生生物がいることがわかった。
- ・ 身近な川にもたくさんの生き物がいることがわかった。
- ・ 植物がたくさんあって生物たちもすみやすそうだった。
- ・ 特に田んぼの水路は、川の水が汚かった。
- ・ 川底に石や小石、どろなどがあった。
- ・ きれいなところにすむ、水生生物もいた。

（3）環境学習の発表

12月9日に、リュートプラザで旧びわ町の時代から活動しておられる「びわ地区青少年健全育成会」の主催する「湖のまちミニ・フォーラム」で、水生生物調査の結果や考えたことを発表しました。たくさんの方に取り組みを聞いていただき、自分たちが取り組んできた学習を発表するよい場となりました。



（4）環境学習のまとめ

今までの環境学習を振り返り、考えたことをまとめました。

- ・ それぞれの水の環境にあった水生生物や生き物がいた。
- ・ 環境が変わってしまうと育ちにくくなる生き物もある。
- ・ 地域の人々の努力で、ビオトープというすばらしい自然ができた。
- ・ これからも自然を大切に、できることを考えたい。
- ・ 川の水をきれいに保つためには、一人ひとりが日頃からゴミを捨てないようにすることが大切である。